

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 3月 15日

事業所名 こどもプラス豊見城教室

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	2	0	運動スペースと静かな部屋を分けている。	
	2 職員の配置数は適切である	4	3	2		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	3	スロープなどを設置している場所がある。	まだ、数か所段差があった。4月に新しい事業所になるため、その場所はスロープを設置し極力バリアフリー化する予定。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2	1		
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	2	0	毎年自己評価を実施し、改善に努めている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	2	0	ホームページにて自己評価表を掲載している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3	1	本部より年3回の巡回指導がある。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	0	毎月本部からの研修がある。	パートさんが研修に参加できない場合があるため、機会を確保する。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	0	個別支援会議を開き、個別支援計画書を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	2	0		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	2	0	運動遊びをスタッフで話し合い活動を決めることがある。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	2	0	上記の話し合いで固定化しないように心掛けている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	3	0		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	0	言語聴覚士や作業療育士による個別対応や、運動遊びなどの集団療育などを組み合わせて行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	3	0	朝礼にて打ち合わせを行っている。	パートさんに伝達できないことがあるため、伝達タイミングを確保する。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	2	0	終礼にて共有している。	パートさんに伝達できないことがあるため、伝達タイミングを確保する。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1	0	毎日の記録・毎月の支援会議の実施。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	1	0	個別支援会議を開き、個別支援計画書を作成している。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7	2	0		

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	0	児童発達支援管理責任者・一番関わりのあるスタッフが参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	2	0	なるべく連携をとれるようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	4	3	対象児無し。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	1	2	相談員を通じてやりとりをしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	5	1	対象児無し。	今後卒業する児童は相談員を通して、会議を行い、就労支援事業所などと話し合いをもっている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	4	1	必要に応じて行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	5	コロナ前は児童館などに遊びに行く事があった。	感染リスクがあるため、実施できてないが、落ち着いたら行っていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4	1	地域の連絡協議会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	0	送迎の際に申し送りを行ったり、公式LINEにて写真などを配布している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレン特訓等の支援を行っている	4	4	1	児童発達支援管理責任者より、ペアレン特訓等を取り入れた支援を行っている。	今後スタッフも実施できるよう研修などをしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	1		個別の面談等で運営規定等の説明をスタッフに行う。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	2	0	送迎時に保護者からお話を合った場合に対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	2	0	コロナにより開催が少なかったが半年～1年に1回実施していた。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	0	意見箱の設置 苦情があった場合即時対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	0		
	35	個人情報に十分注意している	9	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	5	地域のごみ拾いを実施。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	2	1	マニュアルを作成し保管している。	新人職員や移動してきた職員が把握してないため、新しい職員が入った場合は周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1	0	年に2回訓練を実施。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	0	年に2回研修を実施。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	4	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	5	1	アレルギーを持っている児童が入所する場合、保護者からの指示を受けている。	対象児なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	0		